



学校教育目標 かしこく たくましく 心豊かな 児童の育成  
目指す児童像 瞳・笑顔・汗・会話 きらきら輝く 鈴谷の子

令和5年11月30日号  
家庭数配付

# 鈴谷小だより

令和5年度 第8号

鈴谷小Webページアドレス

さいたま市立鈴谷小学校 ☎852-5675

<https://suzuya-e.saitama-city.ed.jp/>



## 心を通わせた先に

校長 中田 清人



子どもひなん所110番の家に登録されているお店へごあいさつ

言うまでもないことですが、子ども達は、本当に多くの皆様方に見守られています。日頃より、学校運営協議会、PTAを始め保護者の皆様、後援会、青少年育成会、自治会の皆様、交通指導員や防犯ボランティアの皆様、図書ボランティアの皆様、チャレンジスクールのスタッフの皆様、民生・児童委員の皆様には、大変お世話になりありがとうございます。私も校長として、学校や通学路の安全性を高め、子ども達に安心して過ごしてもらう

ためにはどうしたらよいか考えることは、大変多いです。

子ども達を見守る仕組みの一つとして、子どもひなん所110番の家が、学区内には指定されています。110番の家は、子ども達が登下校時を中心として、危険を感じたときなどの緊急時に助けを求めることができる避難所としての機能も持ちます。住宅や商店・事業所などが善意で登録してくださっていますが、子ども達がこの避難所を、緊急時の避難先として活用したことはほとんどありません。それだけ、これまで鈴谷小学校の学区は、安全性が高く、子ども達が安心して登下校してきたと言えそうですが、今後も危険が絶対ないとは言えません。

昨年の学校運営協議会の話合いの席で、一人の委員の方から「子どもひなん所110番の家との交流をしたい。」という声をいただきました。その時私は、「いざというときに、子ども達が110番の家を利用できるか」と問われても、すぐには「はい」と答えられそうにないなと思いました。それは、「お互いのことをよく知らない」という課題があるためです。よく知らない人間同士が、いざというときに助け合えるかは、非常に難しい問題です。特に、社会性が十分身に付いていない小学生が、看板を掲げているとはいえ、知らない人に助けを求めることは、極めて高いハードルである気がします。

そこで、4月の第1回目の一斉下校の際は、第1段階として、子ども達に、子どもひなん所110番の家の場所を確認してもらいました。そして、11月の2回目の一斉下校では、児童が、子どもひなん所110番の家の方にご挨拶をさせていただき、交流することができました。交流を通して、子ども達は、子ども110番の家の方と心を通わせることができたと思います。心を通わせると、私たちは、顔見知りになれます。顔見知りなら、困っている時には手を差し伸べたくなるものです。これまで、仕組みとしては存在していた子どもひなん所110番の家が、子ども達にとって本当の意味での避難所になろうとしていることに、私はワクワクしています。これも、学校運営協議会の成果の一つと感謝申し上げます。また、子どもひなん所110番の家の皆様には、これからもどうぞよろしくお願ひいたします。

今回、通学路や通学班の数の関係で、全ての通学班で交流を実施することができませんでした。登下校時の安全性を高めるための確実な第一歩を踏み出せたと考えています。また、例年、PTAで御礼の品を110番の家にお配りいただいていたそうですが、子ども達がごあいさつがてら、御礼の品もお渡しでき一石二鳥です。

この取組は、今後も継続し、学校と地域の連携をより強固なものにしていきたいと考えています。それが、地域の教育拠点としての学校の役割でもあるのですから。